



大改雜喉場元魚問屋

松川八十兵衛と云者茶道ニ

長ト古器目利も巧者故

明治の始百六十兩と云つね

の茶碗を求秘藏せし此頃

手元がへちやふ成り室ハ身の

指替賣んと思ふふといへ平人

といへ得買まといと狂言方ある

徳叟以頼る名も高島屋の右團治と

鶴屋と云見せしる処百六十金にかり

品といふ時世が違へばとてサカ拾田とも

云われまといと名を惜むの能優たち寄幕

小断去ひりねばせん方無くて外へ拂ふ

満二四と聞あり八十兵衛月夜三金を

扱きし如く俄に扱がとら詰て古茶のやう

小氣扱がーチヤツをもちやくを去出

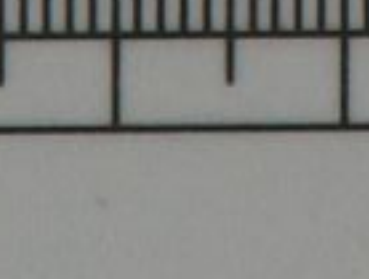
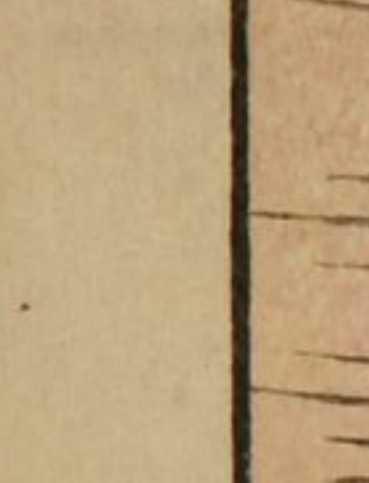
濃茶薄茶の分ち無くにちり上りも出来ぬて茶を

全快覚束無しと是元來茶道の本意を失ふとい

職を事し一人を茶ふせしチヤウラクを天の戒しめ

新聞圖會

第 四 号



おきよん

いんげん